

令和4年度 大阪市英語力調査 (GTEC) 結果の概要について

大阪市教育委員会

■ 大阪市英語力調査

- (1) 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。
- (2) 実施テスト GTEC Core (ベネッセコーポレーションが提供する英語4技能型テスト)
- (3) 調査対象 大阪市立中学校第3学年生徒
- (4) 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシート
読むこと	210	
話すこと	210	タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

■ 調査結果

		GTEC 平均スコア					TOTAL	*1 CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)			
R3 (2021)	大阪市平均	108.0	100.9	93.0	140.3	444.4	52.6%	
	*2 全国平均	104.0	98.0	99.0	157.0	461.0	—	
R4 (2022)	大阪市平均	105.4	102.8	96.6	152.4	459.4	55.8%	
	*2 全国平均	104.0	99.0	97.0	153.0	456.0	—	

*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。

*2 全国平均は、過去2年間にGTECを実施した団体の平均値

■ 結果の概要と今後の取組について

- 本調査は、令和元年度まで英語2技能(「聞くこと」「読むこと」)を測定してまいりましたが、令和3年度からは「話すこと」「書くこと」を加えた4技能で実施しています。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止)
- 令和4年度の結果は、上記のとおり昨年度と経年比較すると、4技能のトータル・スコアが昨年の444.4から459.4に15ポイント上昇し、大阪市教育振興基本計画の指標としております「CEFR A1 レベル相当以上(英検では3級以上)の中学3年生の割合」は、55.8%まで伸びています。
- また、国の第3期教育振興基本計画に示される「中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当以上を達成した中学生の割合を5割以上にする」目標を、昨年から引き続き上回っています。
- 技能ごとに見ると、これまで課題であったスピーキングは昨年よりも3.6ポイント、ライティングについては12.1ポイント上昇し、全国平均と僅差のところまで上昇しています。
- 生徒の英語力、特にスピーキングやライティングの能力が向上した要因としては、小学校からの英語教育の成果やネイティブスピーカーの有効活用等に加え、中学校の授業で英語による言語活動を

行った教員の割合が増えたことやスピーキングテスト・ライティングテストの実施回数が増加したことがあげられ、子どもたちが発信技能を高めることにつながっています。

- ・ 今後は、さらに英語 4 技能の総合的な育成に取り組み、大阪市教育振興基本計画に基づき、令和 7 年度末までに **CEFR A1** レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 56%以上をめざしてまいります。